



巻頭エッセイ

はつだて旅便い

「今日もぷらぷら」

99

「山の向こうの氷あそび」

文月 齊 (ふみつき さい)  
 埼玉県出身。  
 人と街、自然と文化を題材に、  
 みちくさばかりの旅を続ける  
 エッセイスト。  
 函館、埼玉、大阪を拠点に  
 旅を満喫中。

前略、変わりはないか？  
 なにかと忙しい年度末。君が暮らす町のお城の公園では、もうすっかり梅が咲き競っているんじゃないかな。こちら函館では、梅はゴールデンウィークになってようやく桜と一緒に咲き出すので、まだまだ春まで1カ月以上はあるって感じだね。

例年なら町のお城にうず高く積まれた雪の姿を目にするところだけど、今年は雪の少なかつた昨年以上に少雪の年だね。年が明けても自転車に乗れる日がずっと続いてきたよ。先日乗ったタクシートの運転手さんの話では、雪がないと運転は楽だけど、歩くのに弊害があるのでタクシーを利用する人も少なくなるんだってさ。雪不足って意外なところに影響するものだなあ。

雪が少ないからといって暖冬かといえばそんなこともなく、最低気温がマイナス10℃を下回る日が続くこともあった。雪が少なくても気温が低いのは、函館からひと山越えた先の大沼国定公園でも同じで、道中はほとんどアスファルトが露出してたし、気温が低く雪が少ないうえに、今年は大沼の氷がとてクリアな状態で凍ったんだってさ。いや、べつにかき氷を作るわけではないよ。毎年2月の下旬に、大沼では「大沼函館雪と氷の祭典」というイベントが開催されているんだ。メイン会場となる大沼公園広場では、大沼から切り出した氷を使ったジャンボすべり台や、氷の彫刻が並ぶんだけど、これがいつも以上に透き通っていて綺麗なんだよ。会場では雪像コンテストも行われ、干支のねずみ年にちなんだキャラクターのミニ雪像や、車一台分の大きさはあるトリケラトプスの雪像なんかもあったのかな。か楽しいんだ。ただし今年は、開催日の前日にこれまでちつとも降らなかった雪が積もってね、せつかくの雪像もほやけた感じになっていた。

このイベント、実は今年で開催54回目を迎える歴史のあるイベントなんだ。今でこそ冬の沼には観光客も訪れるけど、開催した頃は冬になるとばたりと客足が途絶えたそう。冬季の観光の目玉として函館と連動して開催したのが始まりなんだってさ。会場では凍った大沼の上を疾走する水上スノーモービル体験や、スノーモービルに大型そりを引っ張ってやらせて大沼に点在する島々を巡るツアーなど、冬限定のアトラクションが用意されているんだ。もちろん、冬定番のワカサギ釣りも冬期間中はいつでも体験できて、この日は僕もチャレンジしてみた。いやあ、普段は水が張っている場所を釣るなんて、不思議な感覚だね。陸からそれほど離れていないのに、見える景色がまったく違って新鮮な気持ちで大沼を見ることができたよ。

肝心の釣果の方は、これが案外と釣れるものだね。スタッフのお兄さんが釣り方を教えてくれるんだけど、湖底すれすれに釣り糸を垂れて、二、三回上下させて誘いを掛けて待つこと10秒。竿の先がかすかに揺れるのを合図にすばやく竿を引き上げると、ワカサギが針に引っかかって釣れるというわけさ。そう説明しながら見本を見せてくれたお兄さんの釣り針には、見事に銀色に輝くワカサギが掛かっていたよ。僕も何匹か吊り上げたけど、モロコヤトゲウオなどワカサギ以外の魚の方が多くて、真正正銘のワカサギはたったの二匹だけ。それでも十分に楽しめた。途中、台湾からの団体客もチャレンジしていたけど、一匹釣れただけでも大喜び。みんなスマホを取り出して、大撮影会と化していたよ。

釣ったワカサギは食べられるのかって？ やっぱりそうきたか。釣り場の隣の建物では、ワカサギの天ぶらの屋台があって、イベント以外の日には自分が釣ったワカサギを揚げてもらうことができるんだ。食いしん坊の君なら、釣りをしている時間が惜しいとか言ってる、ずっと屋台にかぶりついていそうだね。あ、ちなみに、香川県三木町の讃岐うどんと地元の特産王様しいたけがコラボした天ぶらうどんの屋台も出店していたなあ。みんな美味しそうにうどんを啜っていたけど、あのコンビネーションは反則レベルだね。来年は食べ損ねないよう、今から予定を入れておくといいよ。それじゃあまた。



法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

さらに詳しくはWEBへ

イータックス

検索